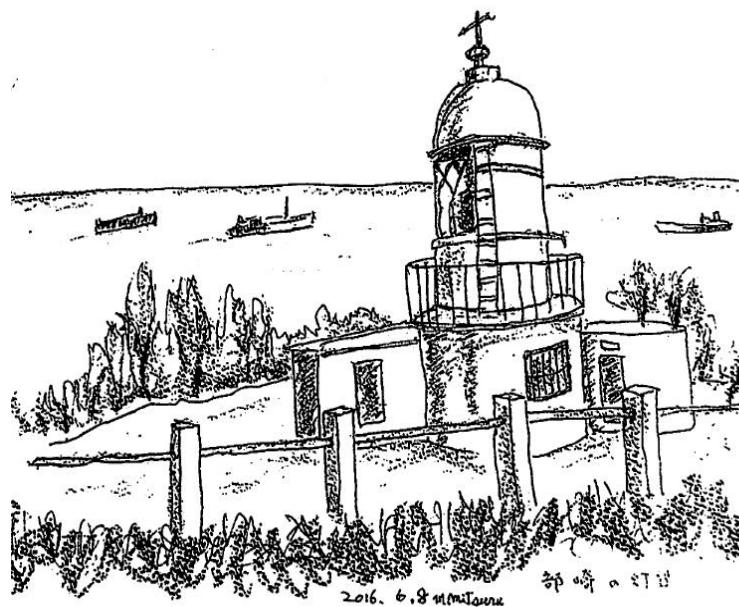


週報2020年11月29日



2020年教会標語聖句

キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。

コロサイ人への手紙 3章 15節

シオン教会信仰指標：“成熟したキリスト者を目指して”

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

北九州シオン教会

牧師：山崎銀次郎

<http://jesus.holy.jp/>

〒800-0038 北九州市門司区大里原町 6-10

TEL 093-381-4395(FAX…4396)

牧師携帯 090-6737-5276



礼拝順序 2020年11月29日

オルガン：力丸勝子 師 ピアノ：赤松真佐子 姉

前 奏

開会の祈り 司会 大熊 強 兄

信仰告白 使徒信条・標語聖句唱和

賛 美 新聖歌 272「救い主の愛と」

今までのめぐみに感謝し、新たな献身を祈りましょう！

献身の祈り 永江初子 姉

賛 美 新聖歌 390「信実全き心もて」

聖書朗読 II歴代誌 34章 1-3

メッセージ 「真の礼拝者」 山崎銀次郎 牧師

祈 り

頌 荣 「主の祈り」

祝福と派遣の祈り

後 奏

交わりの三省

*互いに愛し合っていますか

*互いに赦し合っていますか

*互いに祈りあってますか

説教要約

II歴代誌 34章1-3節 「真の礼拝者」

①真の礼拝者は神の心に出会う

歴代誌は明確な意図をもって書かれました。捕囚後、イスラエルに帰還した民が今後学ぶべき教訓、大切な要素を歴史（特にイスラエルの王政、ダビデ王朝）から学ぼうという目的の元、歴代誌は書かれています。今日の話はヨシヤ王の改革です。彼がしたことは、偶像を取り壊し、祝われなくなった、過ぎ越しの祭りを再開した事です。

今日の箇所（実際は第二歴代誌 34～35章）の中で重要な言葉は“主の御心を追い求める”です。ヨシヤ王は主の御心を追い求めた結果として、偶像を取り壊し始めました（34：3）そして神殿の再建に取り掛かったのです。彼はそこで律法の書を発見します。この発見という言葉、原語では（動物を狩るために）獲物を追い求めるという意味があります。聖書は神の御心をどこまでも追い求めるように言っています。神の御心を追い求める事は、つまり真の神を礼拝する事です。

私達は時折、神の御心を追い求める事より、時間や仕事に追われる事があります。よく言われる事ですが、忙しいという字は、心を失うと書きます。私達はどういう状況に陥っていても神の心を見失ってはいけません。このような弱い私達を支え導くのはいつだって、聖書の言葉です。御言葉を追い求める時、必ず神の心に出会います。私達が生活の中で最優先すべきことは神を礼拝する事です。

②真の礼拝者は神の民を礼拝に導く

もう一つのヨシヤ王の功績は“民を礼拝に導いた事”です。王は献金を集め、祭司にそれを届けました。そして祭司はその献金を工事者や建築士に渡し、神殿再建の奉仕にあたらせたのです。彼らは忠実にこの奉仕にあたりました。ここで言う“忠実さ”とは、王の“心”に対して忠実であったことを意味します。その心とは真の礼拝を献げる事です。（II歴代誌 34章12節）

ヨシア王の改革は心の変革でした。それはつまり、彼の心の変革（真の礼拝者に導かれる事）を通じ、民の心が変革される事です。こうしてイスラエルの民は本来の役割を取り戻して行きます。ヨシア王の功績は、イスラエルの民を在るべき礼拝の民へと教育し導いた所にあります。こうしてイスラエルは、イスラエルの心を取り戻しました。その心とは「私達は神に導かれた民である」です。これが礼拝の動機です。

今日の箇所を通じ、私達が学ぶ事は「私達の献げものは何の為にするのか？」です。この事を見失うと、自己満足や、自己顯示に陥ります。そしてそれは偶像礼拝に結びつけます。私達が犠牲を献げるのは真の主を礼拝する為です。そしてその犠牲は隣にいる誰かが真の礼拝を学ぶ為にあります。真の礼拝者になる為に私達は神の御心を追い求め続けます。その時私達はイエス・キリストに出会います。

③真の礼拝者は礼拝を確立させる

II列王記 35章18節によると「預言者サムエルの時代からこのかた、イスラエルでこのような過越のいけにえがささげられたことはなかった。」とあります。これは神の権威に従う体制から、人の権威に従う体制に移った結果です。ヨシアの功績は在るべき礼拝の形（神の権威に従う姿勢の事）を再び確立させた事です。

エズラを始め、捕囚後の民（特に祭司達）はこの歴史的事実に再び目を留めました。この出来事こそ世々限りなく守るべき事だと再確認しました。偶像礼拝に陥り、神の心を失った民は、イスラエルの滅亡という絶望を経験しました。しかし、祭壇の火を再び灯した、ヨシヤ王の働きを通じて、再びイスラエルは心を取り戻しました。

人の歴史は自らの汚点を隠し、自分にとって見栄えのする所を華々しく見せようとします。その結果律法主義という言葉が生まれてしまいました。私達は何か功績を残しても、そうでなくても神様の愛は決して変わることはありません。私達がいつもするべきことは、主の栄光によって照らして下さる、救い主の御名を褒め称え続ける事です。その賛美は隣の誰かに希望を与え、救いに導く力になります。このようにして私達が献げる礼拝は世の光、地の塩となります。共に主を見上げ、前進してまいりましょう。